



枕崎のこと もっと好きになっただよ

◎第29回青少年研修スクール
ほくもわたしも枕っ子
どっぴいハマってふるさと大発見

投稿

投稿者：枕崎青年会議所 立石祐樹さん



①遠泳に向けて練習
②、③熱心に受講した救命講習
④遠泳はできなかったけどみんなて桜の植樹をした

■(社)枕崎青年会議所では、青少年研修スクールの一環として「ほくもわたしも枕っ子 どっぴいハマってふるさと大発見」を開催しました。これは、枕崎の未来を担う子どもたちに帰郷意識(故郷を想う心)を養わせることを目的としたものです。

小学4年生から中学1年生の21名が参加し、遠泳に向けての練習や枕崎のCMづくりなど、さまざまなプログラムを実施しました。

■8月9日、火之神公園近海を往復する1キロの遠泳を予定していましたが、台風の影響で波が高かったため、残念ながら中止になってしまいました。

そこで予定を変更。片平山公園で桜の植樹を行いました。

遠泳は中止になりましたが、それまでの練習や救命講習など、その過程で大いに勉強になることがあったのではないのでしょうか。参加した田中祐己君(枕崎小6年)は「遠泳ができなかったのは残念だったが、練習を積み重ね、みんな楽しんでがんばれた。また参加したい。」と話していました。

ふんぎとのCMを作成

■今回は、ほかにも枕崎のCMづくりを計画。高校生ボランティア子どもたちが作ったCMを何かの機会に公開したいと考えています。そのときはぜひご覧になってください。



(仮称)駅前観光案内所
12月末完成予定
起工式で安全を祈願

■(仮称)枕崎駅前観光案内所の起工式が8月17日、建設予定地で行われ、工事の安全を祈願しました。

駅前観光案内所は今年の12月末に完成予定。枕崎の観光情報の発信地として愛される施設を目指します。

また、「案内所の整備に役立てて」と、(社)鹿児島県建築士会南薩支部枕崎分会(岸部憲二 分会長)が、ベンチ2脚を寄贈され、7月14日に市長へ目録の贈呈を行いました。大切に使用させていただきます。



大きくなって
帰ってきてね
白沢中ノ瀬海岸で
ウミガメを放流

■アカウミガメの放流が8月5日、白沢東町の中ノ瀬海岸であり、枕崎小学校の児童や別府保育園の園児など約50人が参加しました。

ウミガメ保護監視員の白澤誠さん、白澤澄明さんの説明のあと、子どもたちが86匹のウミガメを放流。「がんばれ！」という声に後押しされるように、元氣よく海に帰っていきました。参加した中村光里さん(5歳)は「カメは泳ぐのが上手。大きくなって早く帰ってきてほしい」と話してくれました。

園児が貝殻ストラップ作りに挑戦

～鹿児島水産高校生徒たちが園児に海のアート教室

■鹿児島水産高校の教職員と生徒による海のアート教室「貝殻ストラップ作り体験」が7月25日、立神保育園で行われました。この教室は、子どもたちが海に興味を持ってもらうことを目的として始めたものです。

園児約45名が気に入った貝殻を手に取り、思い思いの貝殻ストラップ作りを開始。苦戦しながら作っていると、水産高校の女子生徒たちがそっと寄り添い、優しく教えてくれています。

参加した柿屋駿兵君(5歳)は「楽しかった。部屋にはやく飾りたい」と家を持って帰るのが待ちきれない様子でした。



市内中学生に卓球の技術指導

～きばらん海クラブが卓球初心者講習会を開催

■卓球初心者講習会が7月19日、総合体育館で行われました。参加した市内の中学生24名に対し、枕崎きばらん海クラブ卓球教室の立石志先生に加え、鹿児島水産高校の卓球部の生徒たちが熱心に指導してくれました。

数名の班に分かれ、簡単なボールに対してのラケットの出し方から始まり、回転ボールの出し方や高度なフットワーク練習など2時間にわたり講習が行われました。

生徒たちは、回転のかかったボールに振り回されながらも、高度な技術を習得しようとして一生懸命でした。講習会が終わると「年に何回か講習を開いてもらいたい」との要望が早速ありました。



海外での貴重な体験をいきいきと報告

～県青少年国際協力体験事業の体験報告

■県青少年国際協力体験事業で、東南アジアのラオスを訪れていた下竹輝希君(枕崎中3年)が8月12日、市役所で瀬戸市市長への報告を行いました。

この事業には、県内の中学生14名が参加。7月19日から26日の日程で、ラオスの農村で民泊したり、青年海外協力隊員の活動を視察したりしました。

下竹君は、現地での活動の様子や感じたことを写真で説明しながら報告。「交通ルールをはじめ、文化の違いにはびっくりした。ラオスの人たちは優しく思いやりがあった。医療福祉に興味がある。将来海外で仕事をしてみたい」と目を輝かせながら話していました。



自分で作る 100%黒豚ソーセージ

～枕崎養豚振興会研修会を開催

■枕崎養豚振興会研修会が7月23日、妙見センターで開催され、会員家族19名(うち子ども6名)が参加し、100%黒豚ソーセージ作り体験をしました。

はじめ、会長の山口順郎さんが、今回使う肉の部位について説明。その後、コショウなどで味付けした肉を、ミキサーでミンチにしました。肉を豚の腸に詰める作業で子どもたちは、機械から次々に押し出されてくる肉を詰めるのに苦戦しながらも、なんとか作り終わりました。

参加した新屋敷史宮君(枕崎小6年)は「ソーセージは腸の中に肉を詰めるというのを初めて知った。面白かった。食べるのが楽しみ」と話してくれました。